神子元島で撮影された鳥

静岡県下田市にある神子元島では、設置した人工巣の状況やカンムリウミスズメの利用、捕食者の出現状況を把握するためにトレイルカメラを設置しています。撮影された画像を使って、カムリウミスズメの行動や出現時期、頻度、誘致された捕食者であるハシブトガラスの行動や出現時期などをチェックしています。

トレイルカメラには、カムリウミスズメだけでなく島を訪れる野鳥も記録されています。人工巣の設置から回収までの間（12、１月から６、７月まで）に種類が判別できただけでも15種の野鳥が記録されました。イソヒヨドリなどの小鳥類の他、キアシシギやチュウシャクシギといったシギの仲間やハヤブサやミサゴといった猛禽類も写っていました。中でも珍しいのが右の写真のアナドリです。カンムリウミスズメが島を去った後、島に上陸することがあります。時々人工巣の入り口を見ているような興味深い姿も写っています。６月から10月はアナドリの繁殖期にあたりますが、神子元島を訪れる理由はわかっていません。

ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の自然保護活動は、
みなさまからの会費やご寄付等によって支えられています。

シルバーブローチ
（一口5000円・
プレゼント付き寄付）

◆お問い合わせ
共生推進企画室
TEL：03-5436-2630
e-mail：kifu@wbsj.org
HP：https://www.wbsj.org/

バードメイト
（一口1000円・
プレゼント付き寄付）

ご支援について↑

最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページの「当会の活動-自然保護活動について-絶滅危惧種の保護-カンムリウミスズメ」に掲載しています。XやYouTube、Facebookへもリンクしています。

カンムリウミスズメ保護事業
2024年度活動報告書
公益財団法人日本野鳥の会
自然保護室
東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
TEL 03-5436-2634
2025年12月26日 発行

公益財団法人日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
２０２４年度　活動報告書

Annual Report 2024

東海汽船三宅航路で観察されたカンムリウミスズメの家族群
撮影：2025.5.16

主な活動

- ４/１　福岡県烏帽子島にて人工巣を設置（長崎大学等が実施）
- ４/19　三宅島大野原島にて日中の洋上個体数調査を実施（24羽確認）
- ４/13-14、27-29、７/２　静岡県神子元島にてGPSロガーを用いた利用海域調査を実施
- ６/６　福岡県烏帽子島にて人工巣の利用確認調査の実施（長崎大学等が実施）
- ７/２　静岡県神子元島にて人工巣の利用確認調査の実施
- 12/10　静岡県下田市の講座にて講演
- 12/10　静岡県下田市とカンムリウミスズメの地域における活用について情報交換
- 12/11　静岡県神子元島にて人工巣を設置
- １/20　福岡県烏帽子島にて人工巣を設置（長崎大学等が実施）

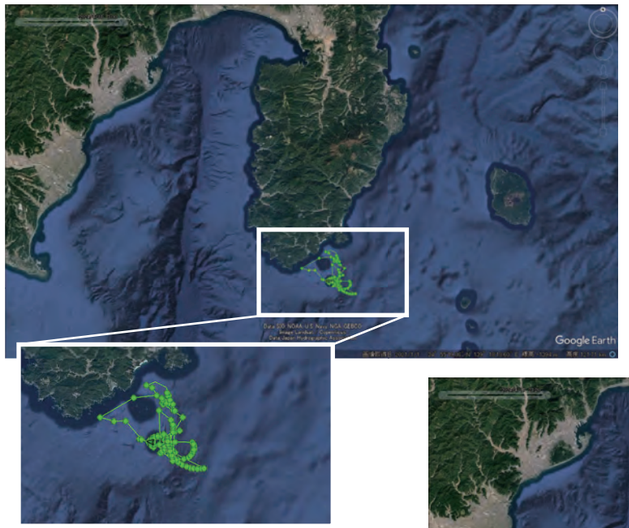
2024年度、当事業はF氏カンムリ基金をはじめ皆様からのご寄付や一般社団法人昭和会館からの助成金、日本軽金属株式会社、日軽金アクト株式会社からのご支援を基に実施いたしました。

公益財団法人
日本野鳥の会

GPSロガーを使った利用海域調査

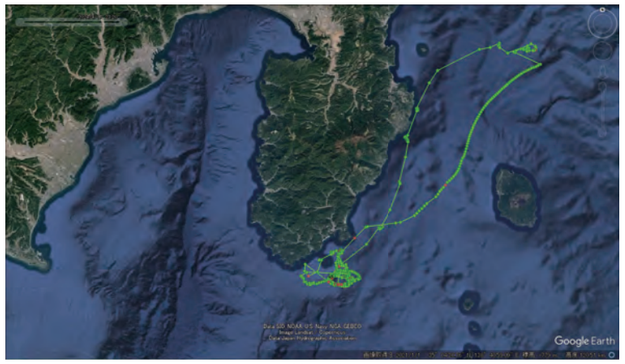
この数年継続しているGPSロガーを使った繁殖地周辺の利用を把握するための調査を、2024年度も静岡県の神子元島で実施しました。東京都の神津島（祇苗島）での調査は海況が悪く今シーズンも実施できず、来年度への持ち越しとなりました。今回神子元島で、これまでのロガーの他、LOTEK製のロガーも使ったところ、以前に比べて長い期間の記録をとることができました。

LOTEK製のロガーを装着した３個体の内２個体からデータが得られ、１個体はこれまでの記録と同じように神子元島周辺を中心に利用していましたが、伊豆半島の沿岸近くまで移動していたことが分かりました。



もう1個体は、驚くことに大島の北、熱海の東、神子元島から直線距離で約70kmの場所まで移動していました。これは、これまでの調査で最も遠くへ移動した事例となりました。

この事例から、これまで繁殖地周辺では、それほど広い範囲を保全しなくても大きな問題は起きないと考えてきましたが、影響が出る範囲を広げて考える必要があることが示唆されました。



図上　伊豆半島沿岸近くまでの利用が確認された

図右　これまでの調査で最も遠くまでの移動が記録された（５日間の記録の内、２日間で営巣地までを往復）

地図データ：Google、Landsat/Copernicus

下田市でカンムリウミスズメについて講演

カンムリウミスズメの繁殖地がある静岡県下田市の教育委員会主催の講座「南豆の歴史を後世に」で講演を行いました。「県内唯一の繁殖地「神子元島」のカンムリウミスズメ」という標題でカンムリウミスズメの生態や特徴、神子元島における保護活動について紹介しました。申込者45名と関係者10名程度の方にご参加いただき動画を交えて説明し、たくさんのご質問や情報提供をいただきました。

当地域は、現在は止まっていますが洋上風力発電の計画もあり、市民の方からカンムリウミスズメへの影響などの質問もいただきました。講演内容は地元のケーブルテレビ局により収録、放映され、当日参加されなかった方にも保護活動などについてお伝えすることができました。

人工巣による繁殖環境の整備

静岡県の神子元島と福岡県の烏帽子島にカンムリウミスズメの人工巣を設置しました。烏帽子島では、海況不良のため通常の時期に設置ができませんでした。４月１日、既に繁殖が始まっている時期ですが、急に営巣場所がなくなることを避けるために30個の人工巣を設置することになりました。当日は当会からは参加できず、長崎大学および北九州市立いのちのたび博物館の方が設置を行いました。時期的に使われないのではないかと考えていましたが産卵や産座の形成等の利用が確認されました。

神子元島では、プラスチック製20個、アルミ製６個、木製２個の計28個の人工巣を設置しました。いずれのタイプも約半数で産卵がみられました。産座を作っていた人工巣も合わせると全体で約80%が利用されていました。産卵や産座の形成が確認された人工巣は次のシーズンも同じように設置するなどし、利用がなかったものは、設置場所を再検討するなど工夫を続けてきたこと、繁殖個体が増えてきていると考えられることが利用の増加につながっているのではと考えています。本島では、引き続き繁殖個体数の増加を目指して改善と設置を続けていきたいと考えています。

三宅島の個体数調査

伊豆諸島の三宅島にはカンムリウミスズメが繁殖する大野原島（通称：三本岳）があり、2018年３月に実施した三本岳周辺での早朝調査では約500羽が確認されるなど主要な生息地となっています。当会では1995年以降、毎年三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館のレンジャーを中心に、三宅島近海の洋上分布調査を行っています。

2024年度は４月19日の午前９時から11時過ぎにかけて、アカコッコ館のレンジャーと島民協力者で調査を行いました。漁船で阿古漁港を出発し、三宅島と三宅島南西８kmにある三本岳の間の海域で個体を重複して記録をしないようにルートに気を付けながら、おおむね漁船の両側50mを観察しました。

その結果、12か所で合計24羽のカンムリウミスズメを確認しました。すべて成鳥で、多くは１～３羽の小さな群れでしたが、最大で６羽の群れもありました。

写真上　当日確認されたカンムリウミスズメ

写真右　三宅島沿岸ではオオミズナギドリの群れがよく見られた